

アンケート結果について

平成28年3月11日
多治見市タイムライン検討会

アンケートで皆様に伺った内容

第4回検討会後の参加者アンケート 質問事項

- ① 多治見市タイムラインの検討に関わって、
何か変化したこと(考え方や行動など)はありましたか。
- ② 多治見市タイムラインの検討に関わったことで
得られたことや良かったことがありましたら、お教え下さい。
- ③ あなたが多治見市タイムラインに
期待していることや感じている可能性があればお教え下さい。
- ④ あなたが多治見市タイムラインに対して感じている
課題があればお教え下さい。
- ⑤ 今回検討した多治見タイムラインは平成28年の出水期に試行することを予定しています。この試行方法や**試行時に併せて実施すべき内容**などのご提案があればお教え下さい。

アンケート結果の概要（主なご意見）

① 検討会に参加して変化したこと

- ◆ 機関や部署間の連携強化の重要性や各主体の行動内容の理解促進
- ◆ 防災行動や災害対応に対する準備・早めの行動を意識

② 検討会に参加して得られたこと・良かったこと

- ◆ 関係機関間での顔の見える関係構築
- ◆ 他機関・他部署の防災行動の把握や気象や防災知識を深めることが出来た

③ タイムラインに期待すること・感じている可能性

- ◆ 人事異動等があっても防災対応の漏れが無いようになること
- ◆ タイムラインの他地域への普及・展開による減災効果

④ 多治見市タイムラインの課題

- ◆ 試行による検証の必要性（レベル移行の判断・人員確保・役割分担など）
- ◆ 爆弾低気圧や集中豪雨など台風と異なる事象への対応
- ◆ 市民や職員へのタイムラインの周知と事前行動意識の醸成の必要性

⑤ 試行方法や試行時に併せて実施すべき内容などの提案

- ◆ 出水期前の机上訓練の実施や定期・継続的な会議の開催
- ◆ まずはとにかく試行して課題を洗い出すことが必要
- ◆ 市民や職員へのタイムラインの周知と研修の必要性

検討に関わって変化したこと

～実際のご意見(抜粋)～

- * 関係機関の防災対応・対策が確認でき、関係機関との連携が重要であることを改めて確認できました。
- * 今まで以上に市町村や防災関係機関との連携が重要であることを再認識しました。
- * 他の部署、機関と連携して災害対策、対応を行っているという実感がわいた
- * 関係部局との連携、協力が不可欠、自分の役割の認識
- * 今回、タイムラインを検討する中、この時期に準備確認し他機関と連携する大切さを確認することができた。
- * 関係各課との連携をさらに強化する必要があると痛感しました。顔の見える関係を充実し、詳細な情報まで共有するシステムの構築が大切で、かつ重要であると思います。
- * 風水害発生時の際に各部門で実施しなければならない内容がよく理解できた。
- * これまで時間軸については感覚で捉えていたが、具体的な根拠をもって捉えるようになった。
- * 準備することを、具体的な時間軸にすることで、いつまでに完了させるかが具体的、具現化できる。
- * 災害対応について、事前に出来る限りの準備をしておくことが重要であると再認識した。
- * 平時からの準備や確認・24時間前の準備行動等については、認識し準備することとしていたが、5～3日前の確認事項等については、考えていなかった。
- * 災害は、起きたらどう迅速・的確に対応するのが課題だと思っていたが、かなり正確な予測が可能な状況であることから、災害の種類によっては、準備できるもの対応できるものがあることが改めて分かった。
- * 消防団の各地域に対しての役割が重要であり、それぞれの地域の事前に災害発生予想各所の確認が必要と感じました。
- * これまでの河川水位で動く事前防災行動の再確認となった。
- * 業務において通常より少し早めの対応・行動を心がけるようになった。

検討に関わって得られたこと・良かったこと

～実際のご意見(抜粋)～

- * ワークショップで、各機関と顔合わせして、行動内容などについて議論できて良かった。また、日頃あまり考えたことがない他機関の行動内容を確認することができて良かった。
- * それぞれの他機関のかかわりや動きを再認識することができた。また、防災気象情報等について詳しく説明を受けることができ、有意義であった。
- * 参加各機関の行動や考え方が把握できたことで、どの機関とどう連携・依頼・相談すればよいかということが分かったことは非常に有意義であったと感じています。
- * 各関係機関と協議していく中で、協働体制が構築され、実際の対応時もスムーズに連携がとれるのではないかと思います。
- * 関係各課と顔の見える関係が多少なりともできたと感じます。今後、さらにこの関係を継続し有事の際にはあらゆる情報が共有できるようにしていきたいと思えます。
- * 自治体の詳細な防災行動を知ることができ参考となりました。また、ワークショップを通じて関係機関と意見交換ができたことは有意義でした。
- * 防災気象情報に対する知識が増大した。
- * 自分の部署だけでなく、他の部署、機関の動きがどういったものがあるか多少なりとも把握する機会になった
- * 災害時における他機関の活動内容等を時系列で把握することができ、今以上に消防活動に専念できる。
- * 自分の部署以外が、時系列でどんな行動が必要になるかが詳細にわかり良かった。
- * 行政として、災害をいかに未然に防ぎ、市民の安全確保をいち早く考えてみえることがよくわかりました。
- * 行政の各機関の委員の皆様の考え方や意識がよくわかり、策定までのプロセスが理解できました。策定に関して、住民としての意見が多少なりとも発言できたこと。
- * 改めて、防災気象情報が防災体制や防災対応に対して重要な情報となっていることが確認でき、防災気象情報の周知・広報に重きを置くことが重要であることも感じました。
- * 様々な関係機関が行動すべきことできることを横断的に想定することにより、実現可能な想定ができた。

タイムラインに期待していること

～実際のご意見(抜粋)～

- * 人事異動になってしまい、職員が変わっても対応事項が順を追って見え、対応の漏れを防ぐこと
- * 浸水害に対して、漏れの少ない対応ができる可能性が高くなったことは、非常に期待できる。
- * 災害対応の事前準備体制について、市民への周知も含め、みんなで情報を共有し、防災意識を高めていくことにつながっていくと考える。
- * 今までは、災害が起きたことへの対処で精一杯でしたが、今後は結果を想定して行動することが可能になった気がします。全市レベルで防災に取り組んでいただけたらと思います。
- * タイムラインを適切に運用していけば、従来だれもが当たり前に行ってきた備え(台風が近づいているから風に飛ばないように片づける、戸板を打ち付ける、不要不急の外出を避ける等)につながるものと感じています。
- * タイムラインを策定していく過程で、各部門の担当者がいろいろなことを考え、他部門の担当と相互に議論しあうことで、課題の抽出や対策などが浮き彫りとなることは大きな成果だと感じた。
- * タイムラインによって、間違いなく各機関が迅速、的確な対応ができると思う。
- * 多治見市における防災対策が、関係機関との連携のうえ適時・適切に執られ、少しでも減災につながることを期待します。また、この取り組みが良い事例となり、県内市町村に広がることも期待したいです。
- * 多治見市タイムラインの運用により減災となることを期待します。また、本タイムラインを手本として、今後、県内の市町村において策定が進むことを期待します。
- * 今回の地域以外での防災行動計画にも、この考え方が活かしていけると思います。
- * 今後の試行により、見えてきた課題等の解決
- * 試行、運用、改善を経て、より良いものとなり、定着することを期待する。
- * 1年かけて作り上げたタイムラインを実行することが無いのを願う。しかし、実行しなければならなくなったら、スムーズに対応できればよいと思います。なかなか思うようにいかないと思います。
- * 今回策定するタイムラインが実際機能するかどうか、訓練することが必要。また、地元自治会も独自のタイムラインを策定し防災意識を高め、タイムラインの訓練等を行って頂けると良い。

多治見市タイムラインに感じている課題

～実際のご意見(抜粋)～

- * タイムラインレベルを移行させる基準の設定が肝であると感じています。特にTL2への移行をどのように設定するかが重要なポイントになるものと思われます。そのためには、特に气象台から提供いただける情報について、細かに打合せする必要があると感じています。
- * レベルⅢ～Ⅴの間における人員確保
- * 避難行動要支援者等の行動はタイムラインによって確実に完了できるものか、時間がよめない
- * 事前に準備しておくことの重要性和、相反することではあるが、災害発生時のその場の状況に応じた対応とをバランスよく組み合わせることが必要だと考える。(災害対応は、事前に準備・想定した通りに、必ずしもいかないという前提を持っておくことも必要だと考える)
- * 組織内での役割分担の検証が必要。
- * 気象現象は、一つとして同じ状況にならないものなので、タイムラインを基にしつつも、臨機応変に対応できるかどうかは課題となるのではないか。
- * タイムラインが計画通りに進まない時のことを想定し、何パターンかの対応の準備が必要であると思います(夜間対応や休日対応も含む)。
- * この検討会で作成したタイムラインを多くの職員にいかに理解してもらうのか、いかに災害時に適切に活用できるようにするのか。
- * タイムラインが、関係職員、住民等に十分に理解され、それぞれが決められた行動がとれるかが重要である。どこまでしっかりと周知できるかが最大の課題であると思う。
- * 今後防災意識の向上が全区民に対して伝わるかが課題。それと共に、全市レベルに周知する方法も検討を要すると思う
- * 爆弾低気圧のような集中豪雨でも対応できるような、タイムラインを作成することは可能なのかどうか。
- * いろいろな案件に対するタイムラインを検討・策定し、運用できると良い。
- * 今回は台風に特化したタイムラインであるが、予測できる災害にはタイムライン的な考えを取り入れて対応していけると良いと感じています。

試行方法や試行時に併せて実施すべき内容

～実際のご意見(抜粋)～

- * 出水期前にロールプレイング形式や机上等の訓練を実施し、行動内容を確認しては、いかがでしょうか。
- * 関係機関の人事異動も踏まえ、年度初めの出水期前に検討会(WG)または机上訓練などの会合を実施したらどうか。
- * 実際に試行する場面が存在するかどうかは不明である。従って、定期的に会議を開催し、タイムラインの内容を意識づけする機会を設けてほしい。
- * 試行時には、住民の方々を含め多くの方の参加が必要になると考えられます。訓練を行い、その結果を踏まえて不断に見直しをしていくことが大事ではないでしょうか。
- * 最初の試行時は、各機関の対応をまず優先するなかで、タイムラインの行動内容やタイミングを確認することが良いと考えます。また、可能な中で、追加したほうが良い行動や連携が必要な機関の洗い出しができればと考えます。
- * 今回、集まった以外の部署や機関にも対応してもらいたい部分があると想定される。そういった部署・機関とも連携した上で、試行していくことが必要である。
- * まずは試行してみて、活動項目に不足がないか、設定した時間内に対処できるか、特にレベル移行のための情報が入手できるかの確認をすることかと思っています。それによって、計画をより現実的なものに近づけていくことができると考えています。
- * 検証が必要なので、もっと早い時期に行うべきだと思う。
- * 関係機関に対する周知徹底。それぞれの担当職員に対する研修会等の実施。
- * 区及び市民が協力してまとまって行動ができればよいと思います。
- * 消防職団員は、全体での行動となると思います。一地域には対応できると思いますが、全市での災害となった時に対応を考えなければなりません。